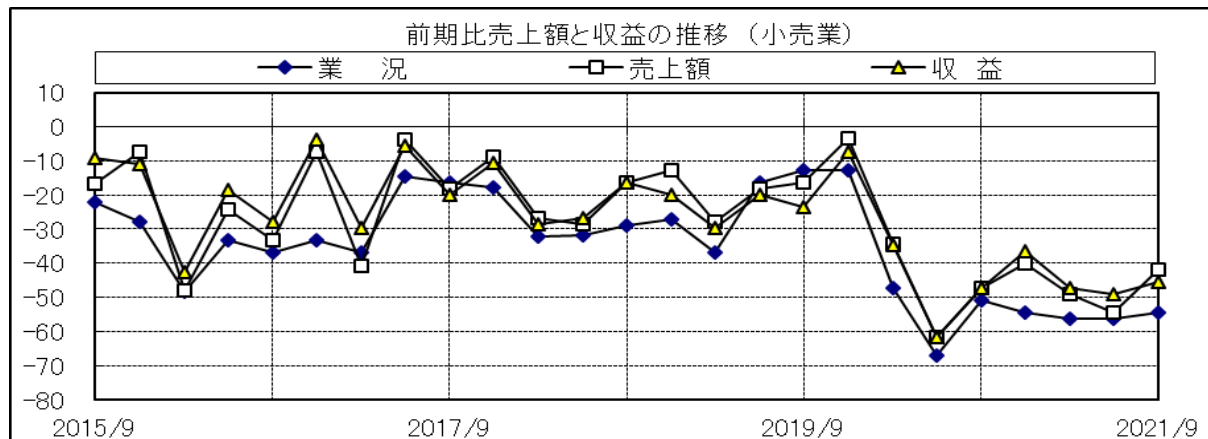


小 売 業 55 企 業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 見 通 し
業 況	-56.3	-56.4	-54.5	-43.6
売上額	-49.1	-54.5	-41.9	-25.5
収 益	-47.2	-49.0	-45.4	-29.1

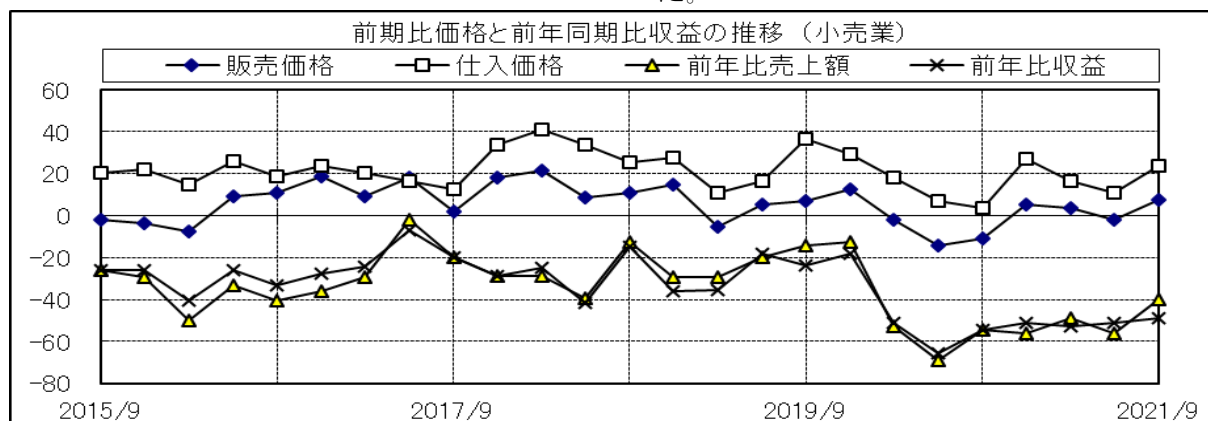
今期の業況判断 D. I. は△54.5 で、前期比 1.9 ポイント上昇した。前年(△50.9)比 3.6 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、えりもが最も高く、次に様似、三石、浦河と続き、静内・広尾が同率で最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△41.9 で、前期比 12.6 ポイント上昇。収益判断 D. I. は△45.4 で、前期比 3.6 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 見 通 し
販売価格	3.7	-1.8	7.3	11.1
仕入価格	16.4	10.9	23.7	20.1

販売価格判断 D. I. は 7.3 で、前期比 9.1 ポイント上昇した。前年(△10.9)比 18.2 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 23.7 で前期比 12.8 ポイント上昇、前年(3.6)比 20.1 ポイント上昇した。業種別の販売価格は、衣料は上昇、食料は下降、家電は横這い。仕入価格は、衣料、食料は上昇、家電は横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 見 通 し
残業時間	-3.7	-11.0	-3.6	-1.9
人手状況	-25.4	-12.7	-20.0	-16.3

残業時間判断 D. I. は△3.6 で、前期比 7.4 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は△20.0 で、前期比 7.3 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

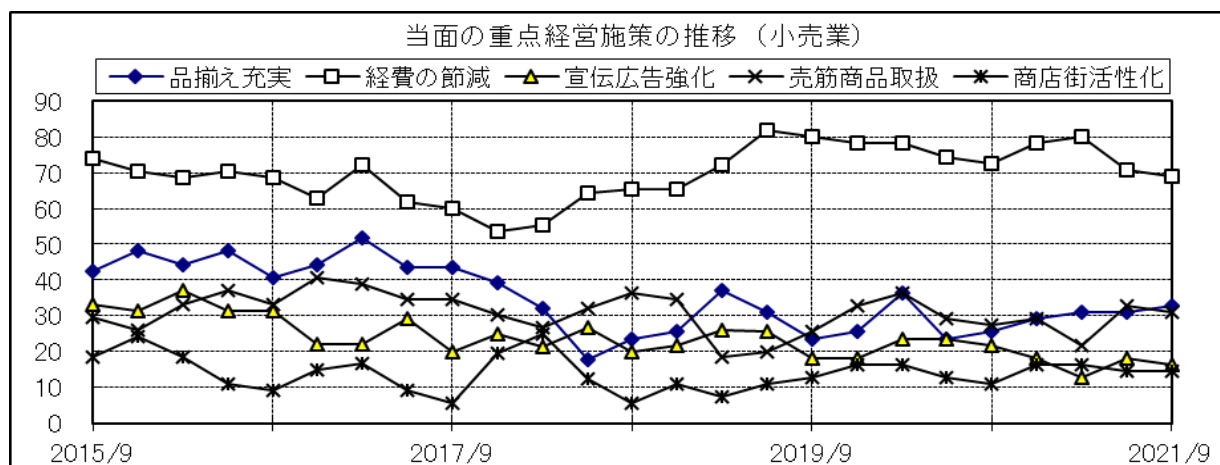
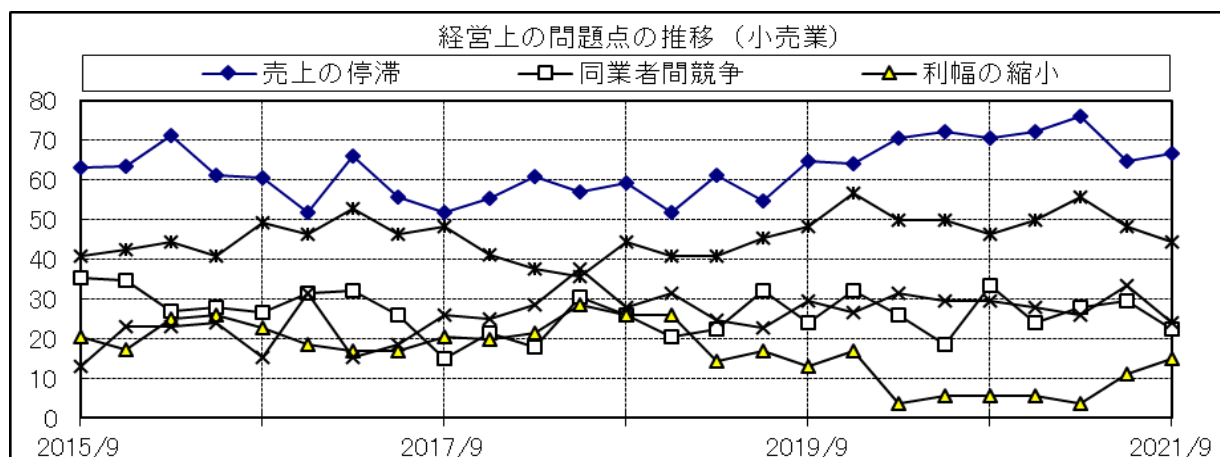
設備投資の充足感を示す D. I. は△18.2 で、前期(△14.5)比 3.7 ポイント下降した。

設備実施企業割合は 9.1 で、前期(7.3)比 1.8 ポイント上昇した。設備投資は、前期 4 社に対し 5 社の実施となった。来期の設備投資は、10 社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が 66.7%と最も多く、次に「商圈人口減少」44.4%、「大型店競合」24.1%、「同業者競合」・「値上り要請」が 22.2%、「取引先減少」16.7%、「利幅縮小」14.8%、「人手不足」13.0%、「商店街集客力低下」・「天候不順」が 9.3%、「地場産業衰退」5.6%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が 69.1%と最も多く、次に「品揃え改善」32.7%、「売れ筋商品取扱い」30.9%、「宣伝広告強化」16.4%、「商店街活性化」14.5%、「仕入先開拓」・「人材確保」が 10.9%、「店舗設備改装」9.1%、「教育訓練強化」7.3%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断 D. I. は△43.6 と、今期比 10.9 ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断 D. I. は△25.5 と、今期比 16.4 ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断 D. I. は△29.1 と、今期比 16.3 ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断 D. I. は 11.1 と、今期比 3.8 ポイントの上昇を見通している。

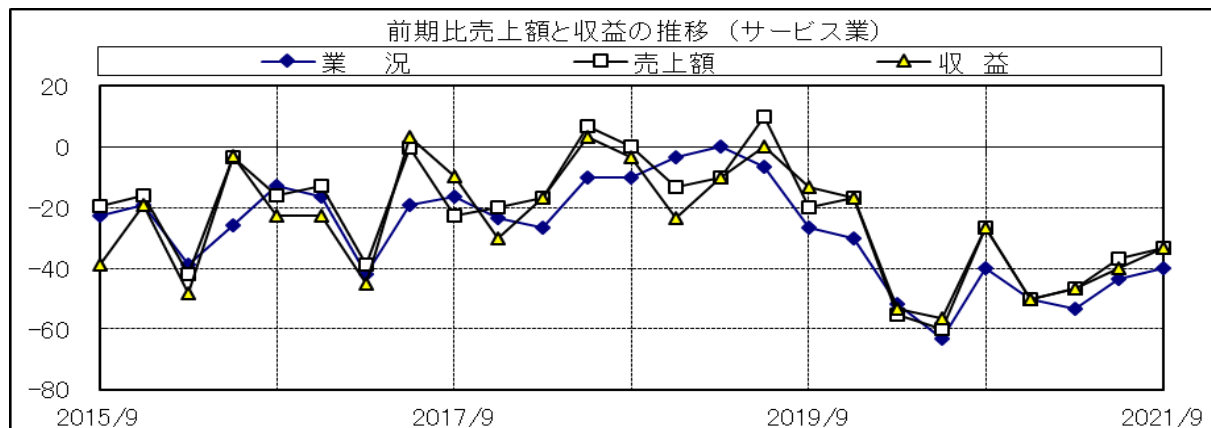
予想仕入価格判断 D. I. は 20.1 と、今期比 3.6 ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-53.3	-43.4	-40.0	-36.6
売上額	-46.7	-36.7	-33.3	-30.0
収 益	-46.7	-40.0	-33.3	-30.0

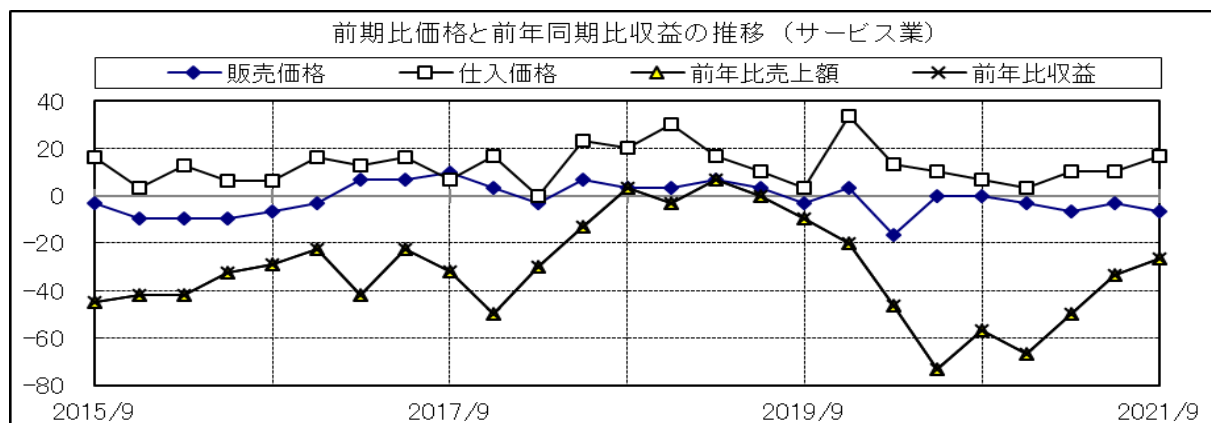
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 40.0$ で、前期比 3.4 ポイント上昇し、前年 ($\Delta 40.0$) と同水準となった。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に静内、広尾、浦河、えりもと続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は $\Delta 33.3$ で、前期比 3.4 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は $\Delta 33.3$ で、前期比 6.7 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
料金価格	-6.7	-3.3	-6.6	-6.7
材料価格	10.0	10.0	16.7	3.4

料金価格判断 D. I. は $\Delta 6.6$ で前期比 3.3 ポイント下降した。前年 (0.0) 比 6.6 ポイント下降した。材料価格判断 D. I. は 16.7 で、前期比 6.7 ポイント上昇した。前年 (6.7) 比 10.0 ポイント上昇した。業種別の、料金は、旅館業は横這い、洗濯理美容業、自動車整備業は下降。材料は、旅館業は上昇、洗濯理美容業は下降、自動車整備業は横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-6.7	-6.7	-10.1	-10.0
人手状況	-13.4	-16.7	-23.4	-26.7

残業時間判断 D. I. は $\Delta 10.1$ で、前期比 3.4 ポイント下降し、残業時間が増加したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 23.4$ で、前期比 6.7 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

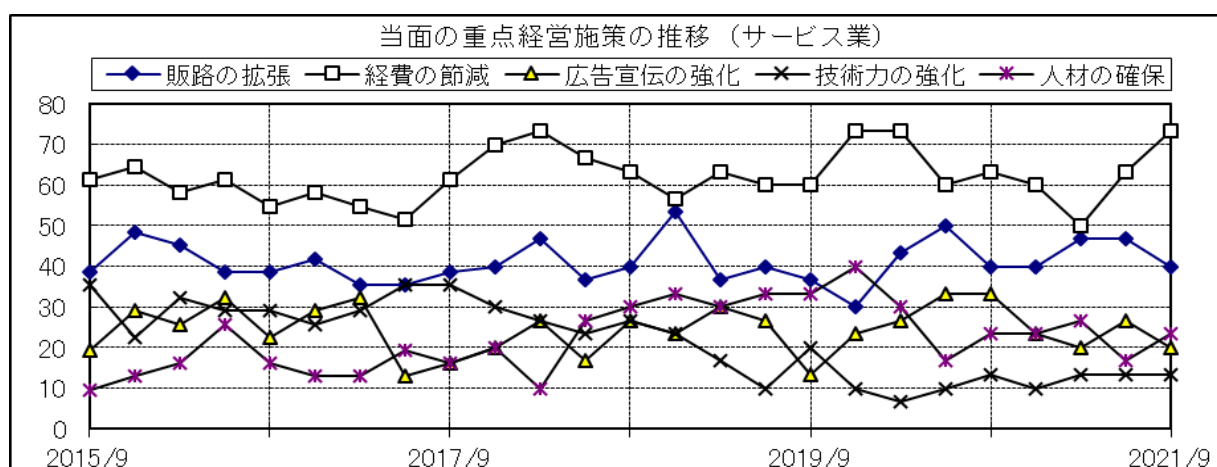
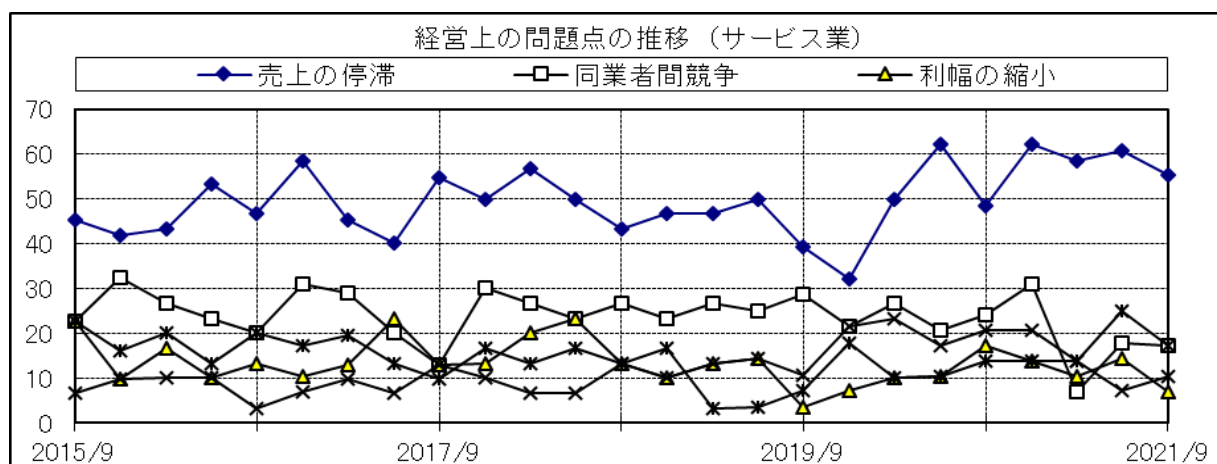
設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 20.0$ で、前期($\Delta 20.0$)と同水準となった。

設備投資実施企業割合は16.7で、前期(10.0)比6.7ポイント上昇した。設備投資は、前期3社に対し、5社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が55.2%と最も多く、次に「商圈人口減少」44.8%、「人手不足」27.6%、「同業者競争」・「地場産業衰退」が17.2%、「材料価格上昇」・「人件費増加」・「店舗設備老朽化」が10.3%、「利幅縮小」・「諸経費増加」・「取引先減少」が6.9%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が73.3%と最も多く、次に「販路拡大」40.0%、「人材確保」23.3%、「宣伝広告強化」20.0%、「技術力強化」13.3%、「教育訓練強化」・「労働条件改善」が6.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 36.6$ と、今期比3.4ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は $\Delta 30.0$ と、今期比3.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は $\Delta 30.0$ と、今期比3.3ポイントの上昇を見通している。

予想料金価格判断D.I.は $\Delta 6.7$ と、今期比0.1ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D.I.は3.4と、今期比13.3ポイントの下降を見通している。